

「九州大学エネルギーウィーク 2024」を開催しました

令和6年1月29日（月）から2月2日（金）の5日間にわたり、エネルギーに関するシンポジウム「九州大学エネルギーウィーク 2024」を開催しました。

第8回目となる今回は、「エネルギー分野の英知が垣根を越えて結集：GXに向けた未来エネルギー技術予測とAI活用」をテーマに、AI、メタバース及び未来エネルギー技術予測等を活用したグリーントランスフォーメーション（GX）に関する動向に焦点を当て、国内外の著名な演者による講演のほか、本学のカーボンニュートラル・エネルギー国際研究所（I²CNER）、水素材料先端科学研究センター（HYDROGENIUS）や、九州地区再生可能エネルギー連携委員会、九州先端科学技術研究所（ISIT）などによるシンポジウム・ワークショップと、若手研究者・博士課程学生による研究発表を実施しました。

国内外の大学や研究機関をはじめ、産業界、行政関係者など、延べ1,300名の方に参加いただき、盛会の内に幕を閉じました。



石橋総長による開会挨拶

▼エネルギー研究教育機構（Q-PIT）▼

（1/29 Q-PIT プレナリーセッション、Q-DeCS 授賞式）

石橋総長による挨拶で開会し、広島大学 IDEC 国際連携機構 Ayyoob Sharifi 教授より「Integrated approaches to climate change adaptation and mitigation in cities」、東京ガス株式会社 馬場 好孝様より「東京ガスにおける GX・DX の取組みと洋上風力の研究開発」と題して講演いただきました。

プレナリーセッション終了後は、九州脱炭素化研究会(Q-DeCS)による授賞式が開催され、初回となる今回は、「京セラ賞」を大学院総合理工学府 博士後期課程 2 年の濱島 達也さんが、「イムラ・ジャパン賞」を大学院生物資源環境科学府 博士後期課程 2 年の佐藤 稜真さんが受賞しました。



広島大学 Sharifi 教授



東京ガス 馬場様



Q-DeCS 授賞式

(1/29 Q-PIT フォーカストセッション A)

エネルギー研究教育機構の林教授より、脱炭素エネルギー先導人材育成フェローシップについて概要説明を行った後、株式会社日建設計総合研究所の伊藤 慎兵様より、「まちづくり DX やスマートシティをはじめとする都市のデジタル化に関する最新動向と展望」と題して講演いただきました。

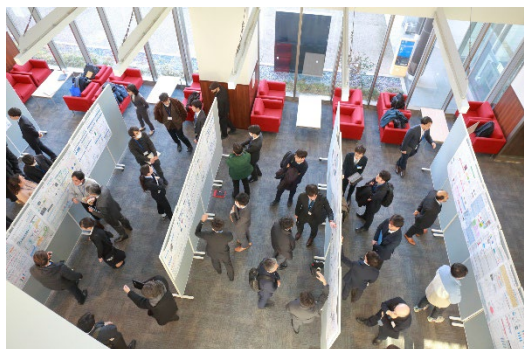
講演後は、脱炭素エネルギー先導人材育成フェローシップ フェロー28名、宮本淳式水素研究奨励賞受賞者7名、令和5年度エネルギー研究教育機構「若手研究者・博士課程学生支援プログラム」採択者・受賞者7名によるポスター発表が行われ、最優秀ポスター賞を大学院工学府 博士課程1年の高岡 祐太さんが受賞しました。



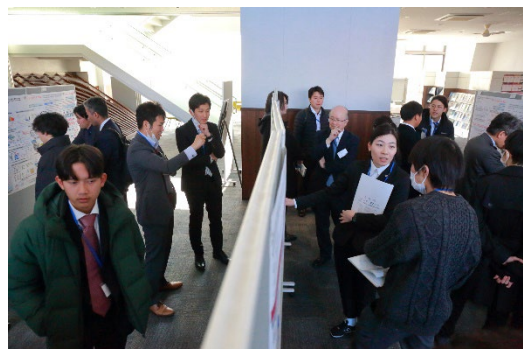
日建設計総合研究所 伊藤様



会場の様子



ポスター発表会の様子



(1/30 Q-PIT フォーカストセッション B)

九州脱炭素化研究会(Q-DeC)の会員企業である、株式会社三菱 UFJ 銀行、三井住友信託銀行株式会社、長瀬産業株式会社、アズビル金門株式会社、富士電機株式会社、株式会社トランスファーデータおよび九州電力株式会社の計7社より、「各企業の脱炭素化への取組と課題および大学への期待」と題して講演いただきました。最後に、エネルギー研究教育機構の劉准教授より、Q-DeCS の設立目的やこれまでの活動実績、会員特典等について紹介されました。



講演の様子



集合写真

(1/30 Q-PIT フォーカストセッション C)

前半の部では、エネルギー研究教育機構の松崎教授より本機構における脱炭素エネルギー研究について概要説明を行った後、脱炭社会の実現を目指し、自然科学系と人文科学系の分野の垣根を越えた研究を実施する学際研究チームであるモジュールより、モジュール研究の概要および進捗について報告を行いました。

後半の部では、スウェーデン王立工科大学（KTH）との合同セッションをオンラインで開催しました。本学からはカーボンニュートラル・エネルギー国際研究所（I²CNER）/マス・フォア・インダストリ研究所（IMI）の Nguyen Dinh Hoa 准教授、IMI の脇 隼人 准教授および廣瀬 慧 教授が、KTH からは György Dán 教授、Qianwen Xu 助教 および Shiva Sander Tavallaey 教授 の計6名がスピーカーとして参加し、「Digital Revolution for a Sustainable Future」をテーマに活発な意見交換が行われました。

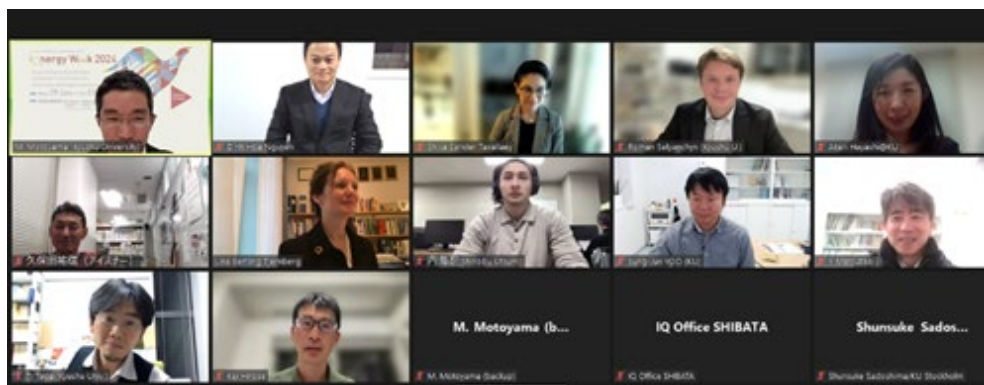
Q-PIT 主催のプログラムにおいては、2日間で現地参加およびオンライン視聴を含め、約360名の方に参加いただきました。



モジュール長による研究発表



佐々木副学長 挨拶



KTHとの合同セッション

▼公益財団法人 九州先端科学技術研究所（ISIT）▼

(1/31 「九州大学-九州先端科学技術研究所（ISIT）-福岡市 連携グリーンTRANSフォーメーション（GX）シンポジウム ～脱炭素ビジネスと水素エネルギーの最前線～」)

1月31日（水）にアクロス福岡大会議室にて、「九州大学—ISIT—福岡市連携 グリーンTRANSフォーメーション（GX）シンポジウム～脱炭素ビジネスと水素エネルギーの最前線～」を開催しました。本シンポジウムでは、脱炭素、カーボンニュートラル分野の中でも水素エネルギーをテーマに2つの基調講演を行い、また、福岡市・ISIT

による市内企業の脱炭素ビジネスへの取組み支援と題して、よろず相談分析 NEXT 事業の紹介や福岡グリーンイノベーションチャレンジ事業採択企業の脱炭素ビジネス事例報告が行われ、142名の参加がありました。



ENEOS 株式会社 前田様 講演



会場の様子

▼カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 (I²CNER) ▼

(1/31 I²CNER アニュアルシンポジウム、2/1 I²CNER Thrust ワークショップ、2/2CESD ワークショップ
I²CNER-IMI 国際ワークショップ)

1月31日(水)にI²CNER アニュアルシンポジウム「Hydrogen embrittlement and Materials for the Hydrogen economy」が開催されました。本シンポジウムでは、水素脆化と材料研究における取組について最新の研究成果が発表されました。アメリカ・ヨーロッパ・アジアの研究機関から世界トップレベルの研究者を招へいし、それぞれの立場から活発な議論が行われました。

2月1日(木)のI²CNER Thrust ワークショップでは、「Toward Carbon Neutrality」と題して3つの研究Thrustからカーボンニュートラル技術に関する最新の成果が共有され、活発な意見交換が展開されました。

2月2日(金)のI²CNER エネルギーシステムデザイン研究センター(CESD)ワークショップでは、学外の連携教員も参加し、今後さらなるコラボレーションの拡大に向け活発な意見交換が行われました。また、I²CNER-IMI 国際ワークショップでは、エネルギーシステムにおける数値研究の動向について発表があり、実用と理論双方から議論が交わされました。

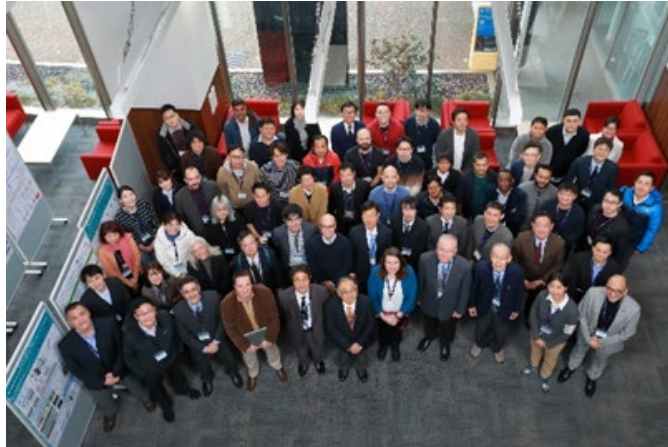
今回のシンポジウム・ワークショップでは、3日間で約400名の方々に参加いただきました。



I²CNER 石原所長 挨拶



アニュアルシンポジウムの様子



集合写真

▼九州大学水素材料先端科学研究センター（HYDROGENIUS）▼

（2/1 九州水素・燃料電池フォーラム&水素先端世界フォーラム 2024）

2月1日（木）、九州大学水素材料先端科学研究センター（HYDROGENIUS）は九州経済産業局、福岡県と共催で「九州水素・燃料電池フォーラム&水素先端世界フォーラム2024」を開催しました。HYDROGENIUSでは、水素エネルギー社会の実現に向けて水素材料に関する先端科学技術の研究を行うとともに、得られた知見を学会・研究者のみならず、広く産業界へ普及するための活動も行っています。2007年から毎年、関係各機関と連携して「水素先端世界フォーラム」を開催しており、本年は終了後に名刺交換会の場を設け、講師・来場者との交流が盛んに行われました。

当日の会場参加者（登壇者除く）は129名（うち事前登録103名、当日受付26名）、オンラインにおける最大同時視聴者数は201名となり盛会のうちに終えることができました



服部知事による主催者挨拶



講演の様子

▼九州地区再生可能エネルギー連携委員会▼

（2/2 再生可能エネルギー連携フォーラム）

2021年に九州・沖縄地区の11国立大学で発足した「九州地区再生可能エネルギー連携委員会」の活動の一環として、「第4回 再生可能エネルギー連携フォーラム」を開催しました。本フォーラムでは、九州地区の9大

学より「再生可能エネルギーに関する各大学の取組」についてご講演いただきました。また、パネル討論では、8 大学の方にパネリストとしてご参加いただき、11 大学連携への期待及び次年度に実施予定の若手交流会について、活発な意見交換が行われました。当日は、産業界や自治体を含む学内外の方々など、現地参加およびオンライン視聴を含め、約 100 名の方に参加いただきました。



パネル討論の様子



福田理事 挨拶



集合写真

▼九州大学 COI▼

(2/2 持続的共進化社会シンポジウム)

2月2日(金)にオンラインにて、「持続的共進化社会シンポジウム」を開催しました。本シンポジウムでは、令和3年度まで実施された持続的共進化地域創成拠点におけるビジョン主導型の研究開発を継承し、社会実装の成果をさらに展開するため活動している COI 研究会について、佐々木一成リーダーによる活動概要説明の後、各部会のこれまでの取り組みや活動について発表がありました。

情報科学部会からは、移動困難者の回遊・交流・社会参加を実現する公共空間マネジメント DX プラットフォームで得られた知見を活用した社会実装の展望について発表がありました。産業数学部会からは、合計値回帰モデルを用いた電力需要予測の説明と社会実装の展望について発表がありました。エネルギー部会からは、①コストエンジニアリングによる次世代燃料電池の説明と社会実装までのシナリオについての発表と、②伊都キャンパスにおける水素社会を目指した持続的・地域モデルプロジェクトとして、様々な社会実装の取組が発表されました。当日は、学内外から約 40 名の方々に参加いただき、意見交換も行われました。



九州大学 COI 持続的共進化社会シンポジウム

【問い合わせ先】

九州大学エネルギー研究教育機構

電話：092-802-6934

Mail：enewee★jimukyushu-u.ac.jp

※メールアドレスの★を@に変更してください